

(図1)。このような芽生え第1葉の葉身の形状は、前述の5タイプのどれにも当てはまらない、オオアマミテンナンショウに独特の特徴である。この事実から見ると、オキナワテンナンショウやアマミテンナンショウの野生集団内に稀に見られる5小葉の小個体は、その年に芽生えたものである可能性が高い。したがって、第1葉が5小葉であることは種としてのアマミテンナンショウの特徴であると思われる。



図 1. オオアマミテンナンショウの芽生え第一葉 (×1)。

アマミテンナンショウは、地下茎上に多数の副芽を生じること、および葉軸上に多数の小葉をほぼ等間隔につける鳥足状の葉身と、無柄で(少くとも雌花序では)基部に退化花のある花序付属体を持つ点で、伊豆諸島産のシマテンナンショウ *A. negishii* Makino と共通しており、アマミテンナンショウ節 *sect. Clavata* Engler に属する。しかし、芽生え第1葉の点では、シマテンナンショウでは地下性の鞘状葉であり、マイヅルテンナンショウ節ウラシマソウ亜節 *sect. Tortuosa* Engler *subsect. Flagellari-saema* (Nakai) J. Murata と同じであるのに対し、アマミテンナンショウは全く異なっており、テンナンショウ属においても独特であることが明らかとなった。

(東京大学 理学部付属植物園)

□高知県立牧野植物園(編): 牧野文庫蔵書目録(和書・漢籍の部) 205 pp. 1986. 非売品。牧野富太郎博士の膨大な蔵書が1960年に牧野家遺族から高知県に贈与された。県では1963年に高知市五台山の牧野植物園の中に牧野文庫を建設して、蔵書の整理・管理・閲覧の仕事を始めた。蔵書目録のうち、洋書(欧文)の部は1981年に(7,044冊)、明治以降の和文図書の部は1983年に(6,696冊)、それぞれ刊行された。今回のものは和書9,112冊、漢籍5,065冊を納めている。以上の3部で合計約2万8千冊となり、牧野文庫4万数千冊のうち単行本のすべての目録が完成したことになるという。これで利用者には大変便利になり、貴重な書籍が大いに活用されることであろう。なお牧野植物園の所在は〒780 高知市五台山 3579-2。

(伊藤 洋)